

9年間でめざす子ども像と実現のための小中一貫した義務教育内容、学校、家庭、地域の役割

目指す子ども像に沿った小中一貫教育の推進

全ての子どもたちの豊かな未来の実現を目指し、小中一貫教育の機能、コミュニティスクールの機能を活かし、学校・家庭・地域の協力、協働のもとに、9年間連続した義務教育を推進していく。

1 目指す子ども像（推進計画内 目指す子ども像）

- ・ 自分の心と身体にまっすぐに向き合い、自分の良さを発揮し、自己実現できる子ども
- ・ 多様な価値観を大切にし、互いの良さを引き出しあい、主体的に他者と協働できる子ども
- ・ 二宮に愛着と誇りを持ち、社会に貢献できる子ども

2 小中一貫した義務教育内容、学校、家庭、地域の役割

① 学校・家庭・地域での基本として

- ・ 子どもの権利を尊重し、子どもの声にしっかり耳を傾ける
- ・ 個性を大切にし、伸ばす。アイデンティティの確立、自我の成長を妨げない
- ・ 本人の考え、子ども、大人関係なく受入れ、尊重する
- ・ 子どもの自主性、主体性を尊重する
- ・ 性善説に立ち、子どもの成長や良さを信頼する
- ・ 互いに否定しない関係性を作る
- ・ 多様性を認めあい生かす
- ・ ギャップイヤーを尊重する
- ・ 自他の違いや良さ、多様性を理解し、協働して課題解決を図れるよう導く
- ・ 自他の弱みや強みを理解し、補い合いながら社会生活を送れるよう導く
- ・ 豊かな対話や他者との関わりを通じて子どもの社会性を高める

② 学校教育では

- ・ 異年齢で共に学んだり活動したりする場を充実させ、ロールモデルからの学びを大切にする
- ・ 学年が上がることに期待感を持ち、異学年とのかかわりの中で自尊感情が育つ工夫をする
- ・ 特別な支援が必要な子どもたちの成長を小中の教員、保護者で共有し、9年間の連続性の中で個に応じた指導を充実させる
- ・ 子どもの「知りたい」「やってみたい」という好奇心や意欲を大切にし、主体的な学習課題の設定と

協働的な学びを保障する

- ・対話を通して、最適解、納得解を求める場を大切にする
- ・9年間のカリキュラム編成に学び直し、学び進めの機会を作るなど個に応じた指導を充実させ、義務教育終了時に基礎基本が確実に身に付いているようにするとともに学力格差の解消に努める
- ・社会生活で必要な読解力を育てる
- ・英語教育の充実を努める
- ・家庭・地域と連携してキャリア教育を充実させるとともに義務教育終了後の目標が持てるようにする
- ・地域理解のための学習を進める

③ 家庭・地域では

- ・大人は積極的に地域活動に関わり、子どもにモデルを示す
- ・地域、社会の発展に向けて、できることから行動する大切さを示す
- ・適切な環境整備に努め、子どもの良さを認め伸ばす
- ・特別な支援の必要な子供とその保護者への理解を深め協力する
- ・子どもの力を信じ、家庭や地域の中でできることは子どもに任せて自信や自己有用感を育てる
- ・子どもの「知りたい」「やってみたい」という好奇心や意欲を大切にする
- ・多世代とのかかわりの中で社会性や自己有用感を育てる
- ・学習資源の提供に努め本物に触れる機会を作る
- ・学校の教育活動を充実させるために協力する
- ・子どもたちの世界的視野、国際的な視野を広げる

④ その他

- ・3小学校の人数差を小さくする
- ・多様性が認められるシステムをつくる（きまりや校則、制服 等）
- ・格差のない教育の中で個性や良さ、特長が伸ばされる仕組みが求められる
- ・積極的にICTの活用を図る
- ・幼児教育と連携する

3 教科等の指導を通じて育成する資質能力 ※二宮町小中一貫教育ランドデザインより

①生きて働く 知識・技能	②未知の状況に対応できる 思考力・判断力・表現力	③学びを人生や社会に活かそう とする 学びに向かう力・人間性
<p>①主体的に継続して勉強する 分からないこと・知らないことを、恥ずかしがらず、躓踏せずに獲得しようとする主体的・積極的な学習推進力</p> <p>②多様な学びで知識を吸収する 人との関わりを通じた学び合いの気持ちを育み、多様な考え方を学ぼうとする知識獲得力</p> <p>③知識を応用して上手に使う 日常生活での知識の有用性に気づき、既習知識との関連性や相乗効果を高めようとする知識拡充力</p>	<p>①必要な情報を集めて分析する 自ら課題に気づき、その解消に向けて的確な情報を収集し、分析、解釈して効果的に生かす情報分析力</p> <p>②状況に応じて適切に判断する 課題解消への道筋を吟味しながら、自ら自問自答して仮説検証を繰り返すことができる実践判断力</p> <p>③論理的で柔軟に思考する 多様な視点と柔軟な発想により、目的に即した論理的で柔軟な思考力</p> <p>④自分の考えを正しく伝える 自分の考えを順序だててまとめ、説得力、表現力豊かな言葉で伝達できる自己表現力</p>	<p>①多様な価値観の仲間を増やす 価値観の違いを乗り越えた人間関係を構築し、多様性を受容するよりよい共生社会を実現しようとする共生構築力</p> <p>②互いの違いを認めて高め合う 他者の意見や気持ちを尊重しながら、学び合いでよりよい考えを作り出すなどして互いを高め合おうとする協働成長力</p> <p>③諦めずに自分の夢をかなえる 学ぶこと、働くこと、生きることの尊さを実感し、粘り強く目標を達成しようとする自己実現力</p>

4 参考：二宮町の取り組みについて～2022年度第1回研究会 小松郁夫先生講演から～

○義務教育で何を特に重点化して保障していくのかは大事なテーマである。社会の形成者として若者をどう育てていくのか、国にとっても大事だが地域社会にとっても大事である。二宮町で育つ人達が二宮町を支え、発展させてくれる人材になるためには、どういう学びを保障してあげたらよいのかを考えていく必要がある。新しい学校施設の中で、子どもだけのための学校施設じゃなくそこで大人も学べるような機能を持たせてもよいと思う。

○二宮町としての教育方針に基づき、小学校3校同士、中学校2校同士などの横の連携をより意識し、

問題に対して共通に研究をしながら進められたらよい。教材づくり、校則の見直し、今の教育テーマに関すること、合同の研修や交換授業をしたり、部活も合同でやってみたりなど。部活の地域移行が進むのであれば、地域全体でスポーツ活動及び文化活動を奨励していくのもよい。

○小学校も中学校も町が設置者でありベースが一緒なので、施設が分離したままでも内容的に連携を深めていけばよい。学校には校内文化があって、ちょっとした文書処理だけでも違う。

8月25日から2学期が始まる学校もあれば、9月1日から始まる学校もあるなど学校によって様々な違いはある。できるところを統一していきながら、洗いざらい課題を出し、いいところを議論しあって進めていけばよいだろう。分離のままでも統一できるものは統一していき、次にハードに取り組めば良いと思う。新しい建物は先だけど、中身は一緒になり、これが二宮の学校だねというようになるような取り組みをすればよいと思う。

○基礎段階では、漢字が読めるとか読めないとか、計算ができるとかできないとかの知識の習得ができた上で、だんだん自分なりの判断や表現ができるようになる。小学校段階では、基礎が7、8割ぐらいで、残りが創造部分になるが、果たしてそれでいいのだろうかという議論もある。また、個別最適な学びというキーワードがあるが、一人一人、発達段階によって異なるため、教育は正解があるようでない。だからいろいろやってみるしかないだろう。教育は極めて多様性がある、変動性がある、だから面白い。みんなで知恵を出してやっていくしかないだろう。